

臨床検体を用いた頭頸部腫瘍のゲノム解析とそれを基盤としたリキッドバイオプシーなどの社会実装に関する研究

1. 研究の対象

大阪大学医学部附属病院および大阪国際がんセンターを受診された頭頸部腫瘍の患者さんを対象としています。「遺伝学的研究に向けた耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域における腫瘍性疾患の臨床検体バンキング同意書」に同意された患者さんの血液やうがい液など体液と、生検や手術で摘出された組織検体を研究試料といたします。

2. 研究の概要

従来は生検や手術で摘出された組織検体でゲノム解析を行っていましたが、近年、血液などの体液からもゲノム解析を行うことが可能となりました。これはリキッドバイオプシーとよばれ、様々な研究がなされています。リキッドバイオプシーは低侵襲に腫瘍のゲノム解析を可能としただけでなく、病気の早期発見、さらには難治性腫瘍の病態解明などにも期待されています。この技術を用いることで将来、頭頸部腫瘍の患者さんによりよい治療を提供できると考え、社会実装にむけて本研究を行っています。解析は、大阪大学の研究施設等で行います。解析期間を含む研究期間は、2024年3月までを予定しています。

3. 研究の意義

リキッドバイオプシーの頭頸部腫瘍に対する有用性が明らかになれば、より低侵襲な検査、早期診断などが可能となり患者さんによりよい治療ができるかもしれません。また、従来の組織を用いたゲノム解析と組み合わせることで、今までわからなかった難治性腫瘍のメカニズムが明らかになることも期待されます。

4. 研究の目的・方法

従来の組織のゲノム解析で得られる情報と血液など体液のゲノム解析で得られた情報をあわせて調べることで、リキッドバイオプシーの有用性を検証することを目的としています。また、頭頸部腫瘍の患者さんではこの技術をどのように社会実装するのがよいか検討します。さらには一連の研究により、難治性腫瘍のメカニズムの解明、さらには新規治療法の開発につながればと考えております。

本研究では、組織と血液などの体液のゲノム解析を行い、それらと様々な臨床情報の比較を行います。ゲノムの解析には次世代シーケンサーやデジタルPCR

などの革新的技術を用います。これらは多種多様な遺伝子の情報を大規模に得たり、特定の遺伝子の情報をより高感度で得ることを可能としますので、従来の研究では明らかにならなかったことが解明できると考えています。

5. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴 等

試料：血液、手術で摘出した組織 等

6. 研究組織

- 大阪大学大学院 医学系研究科（研究代表者：猪原秀典）
- 大阪国際がんセンター（研究代表者：藤井隆）

7. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出下さい。この場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

大阪大学大学院 医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

FAX：06-6879-3959 TEL：06-6879-3951

担当者：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 田中秀憲

研究責任者：

大阪大学大学院 医学系研究科 がんゲノム情報学・教授 谷内田真一